



“いま、和賛心のとき”

フォーラムたより

2022
5月号
No.59

「布教と連帯」を形成する「協力」

金光教首都圏フォーラム副議長 鈴木一嘉

金光教首都圏フォーラム（以下首都圏フォーラム）は、茨城・栃木教会連合会、群馬・埼玉教会連合会、千葉県教会連合会、東京都教会連合会、神奈川県教会連合会の5つの教会連合会で構成されている組織である。そして各教会連合会は各々の地域の教会で構成されている組織である。更に各教会は、在籍教師をはじめ在籍信奉者で構成されている。つまり首都圏フォーラムは各連合会とながり、各連合会は各教会とながり、各教会は各信奉者へとつながる1つのラインとなる。

首都圏と一口に言ってしまうは簡単だが、教会の所在も広範囲にわたり、創設時期や「手続き」が異なる、約100の教会が、協力して活動を

推進することはそんなにたやすいことではない。しかし一方で、本教内の別の教区を見渡しても、例えば近畿フォーラムや四国フォーラムという組織は存在しない。そういう意味では、首都圏フォーラムは稀有でありながらも大変貴重な組織であることは間違いない。そうとして、フォーラムが創設時から大切にしてきた「布教と連帯」という旗印を具体的にどのようにイメージしたらよいのだろうか。

私はこの「布教と連帯」をこう考える。例えば空腹で困っている人たちがいるとしよう。カレーライスを作って与え、元気を取り戻してもらいたい、一人で作るカレーライスは作る量や与える範囲が知れている。

しかし、連帯してカレーライスを作れば、例えば玉ねぎを差し出す者、人参を提供する者、肉や米は費用がかかるから皆で少しづつ金を出し合って購入しよう、うちは食材は出せないが米とぎは行う、うちはスプーンを用意する、うちは配膳を手伝う等々、皆が協力すれば、それはそれは大量の美味しいカレーライスが出来、そしてそのカレーライスを難儀な氏子に届け、その氏子は救いを得る。カレーライス作りに例えたが、連帯して布教をするということは、こういうことではなからうかと思う。

ここで最も重要なのは「協力」であり、「協力」なくしてこの事業は達成されない。これからも『布教と連帯』のためのご協力をお願いしたい。

首都圏

「平和の祈り」運動

首都圏フォーラムでは、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受けて、3月4日に緊急メッセージ「平和の祈りと連帯を」ロシアのウクライナ侵攻に当たり」をホームページ上で発表し、首都圏の各教会に「首都圏『平和の祈り』運動」を呼びかけました。教祖金光大神様の事跡に神習い、「天下太平諸国成就祈念総氏子身上安全」ののぼりを立てて、日々「平和の祈り」でご祈念をするというものです。詳しくは当フォーラムのホームページをご覧ください。



首都圏各連合会

2022年の願いと活動

茨城・栃木教会連合会



岡本眞美会長

令和2年の新春、連合会の新体制発足を年初の総会で報告した直後から新型コロナウイルス感染拡大防止の取組みの呼びかけが発せられ、以降は連合会の会合開催を自粛・予定した諸活動を休止せざるを得なかった2020年と、オンライン会議ツールを活用し手探り状態でリモート会合の開催を重ねた昨2021年でありました。

そのような状況下、リモート参加型のオンライン会議を重ねる中で参加者が決まって口にしたこと、それは「画面越しでは感じるものの出来ないものが沢山あることに改めて気

付かされた」ということでした。

連合会の活動方針に「ひとり一人が地域・社会のお役に立つことを通じて、お道による助かりの輪を広げる」を掲げて3年目となる今年は、各々が「お役に立つ行動」を具体的に定めて実践するとともに、教祖様の御理解「信心は日々の改まりが第一じゃ。毎日、元日の心で暮らし、日が暮れたら大晦日と思い、夜が明けたら元日と思うて、日々うれしゅう暮らせば、家内に不和はない。」を抛り所といただいて、その在り方を常に省み日々の改まりを重ねて、より良い形へと変わってゆくことを目指します。

主要行事である教師・信徒合同研修会は2年続けて見送りとなつていますが、教祖様の在られ方を原点として地域・社会のお役に立つことの意味を見つめ直す機会とするべく、対面形式での開催を目途に、準備をすすめてまいります。

群馬・埼玉教会連合会



小笠原操会長

群馬・埼玉教会連合会では、「世界の平和と人類の助かりに向けて、『神人の道』を開く」を基本方針に掲げて活動させていただきまます。

昨年も新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら主だった行事が中止あるいは延期となりました。

しかし、その一方で、教師会、教会家庭婦人会、信徒部運営委員会など、オンライン・オフライン併用で会議を持つことができたことは、ありがたいことでした。

今年度も新型コロナウイルス感染症流行の状況を見極めながら活動を進めてまいります。主な行事としては、昨年中止となった第27回金光プラザ・イン群埼玉(教師・信徒合同研修会)を、11月5日(土)に開催します。昨年同様に女子中高生の支援活動を展開されている一般社団法人Colabo代表・仁藤夢乃氏を講師に迎えて、現代の少女達の取り巻く状況

についてお話をいただく予定で準備を進めています。

更には、茨城・栃木教会連合会と同で教師研修会も計画中です。

その他、社会問題勉強会、信心共励会なども計画しています。

また、教師部では年3回の教師会。信徒部では年4回の運営委員会を予定しています。

この他にも教会家庭婦人会、群馬女性フォーラムがそれぞれに活動を繰り広げる予定です。いずれにしても、状況に応じて、オンオフ使い分けて活動を進めてまいります。

千葉県教会連合会



鈴木宏政会長

千葉県連合会では、令和4年2022年【お礼と喜びの心で人を祈ろう】とテーマを掲げさせていただいております。

2020年1月に連合会青年育成祈願祭をお仕えさせていただきました。後には、コロナ禍の為に連合会活動は、その時々状況を考慮しつつ自

肅せざるを得ない次第でございました。

オンラインなどの会議では、執行部による確認等はいたしておりましたが、皆様と共に進めていくような催しはまだまだハードルが高いように思います。

それでも昨年の11月28日には、半日開催として連合会共励会と育成祈願祭を合同で開催させていただくことができました。

祈願祭祭主は連合会長、祭員は木更津南教会の安西修一先生に御用いただきお任せさせていただきました。今までは、講師をお招きして御教話を生で聴かせていただくことは、ございましたが、この度は、御教話の録画映像をスクリーンで拝聴させていただきました。初めての試みでしたが、とても有難く、聞き取りにくい部分は繰り返し、ポリュームの調整も出来そうですので手応えを感じました。

また、開催行事に伴いまして、昨年新任教師としての補命を受けられました、船橋教会 金光寿恵先生、松戸教会 鈴木一監先生に連合会よりお祝いをさせていただきました。

毎年の研修会は今年が50回の節目開催でございます。6月5日に

開催予定ですが、有意義な信心の学びの場を提供させていただければと願っております。

東京都教会連合会



鈴木一嘉会長

現執行部体制最終年となる令和4年、活動方針「心新たに あいよかけよで「布教と連帯」を図り 首都圏布教と社会活動を推進する」を掲げ、連合会活動を進めてまいります。

ここ2年間新型コロナウイルスの影響で、直接同会場に集って何かを行うという従来通りの活動がままならない状況の中で、昨年からはパソコンやスマートフォンを利用したオンラインでの活動が各所で徐々に浸透してきました。しかしそれらの機材を有しながらも、機械操作がままならず、なかなか活動に参加しづらい教師、信徒に向けて、研修部が6月25日土曜日13時30分より金光教東京センタービルを会場に、講師に神奈川工科大学準教授中尾教子氏

(神奈川・子安教会在籍) 迎え、「スマホ講習会」を実施します。講師は、大学で学生に学校現場の教育の情報化の支援、調査研究を指導しており、「スマホ講習会」では、所有率の高いスマートフォン操作を学習し、オンラインでの活動に企画・参加出来るスキルを身につけて頂きます。連合会では月1回の分会会長会議をはじめ、4つの分会も2、3ヶ月に1回は例会を実施しておりますが、この「スマホ研修会」によって、オンラインの会議などに参加者が増えれば、連合会活動も熱を帯びてくることと期待しております。

神奈川・山梨教会連合会



山田信二会長

今年、神奈川・山梨布教130年の記念の年を迎えました。これは、1892年に福田助次郎師が横浜で布教を開始したことを、神奈川山梨地域での布教はじめてとして今年が130年になるということです。そこで当連

合会では、神奈川・山梨布教130年を記念した活動を進めてまいります。

各教会では今年一年「神奈川山梨布教祈願詞」を奉唱し、神様、教祖様、先覚先人にお礼を申しつつ、難儀増し行く現代社会にあつて、改まって信心を求めあい、信心の喜びを伝えていくことを願っております。

また、この3年間、ご本部参拝もままりませんでした。10月1日2日にはご本部でつどい、「ご霊地集会」を開催し、金光英子先生(前金光図書館長)から二代金光様のご信心についてお話し頂き、130年前の信心を学びます。

例年行っている行事も、130年を意識したテーマで行います。すでに3月16日には「横浜布教の歴史に学ぶ」をテーマに教師信徒研修会をリモートで開催し、東京横浜布教を巡る当時の社会状況や本教の情勢、福田助次郎師の事跡やその後の横浜布教の展開などを、4人の先生方が発表しました。3月27日には、信徒部が地域交流会を行い、福田助次郎師の布教地と奥城を巡りました。その他、みんなのつどい(みなとみらい散策)、女性のつどい(信心継承体験談)、講話と夕食の会(教祖様伝記映画の鑑賞)等を計画しています。

甲子園4度目の挑戦で初勝利 金光大阪高校 ベスト8に輝く

金光大阪高校野球部は、春夏通じて過去3回甲子園大会に出場しており、首都圏フォーラムはバスツアーなどを組んで応援してきた。今回はコロナ禍で長距離の移動に制約があり、試合日程等を首都圏各教会にお知らせして応援参加を呼びかけた。

一回戦は3月21日、東海1位の日



大三島高校との対戦だった。初回金光大阪は相手投手の立ち上がりを攻め、四球をはさむ3連打などで3点先取した。その後はエース古川君のスライダーが冴えて日大三島打線を抑え、6回にはスクイズで加点して4-0で甲子園初勝利を挙げた。春の空に、勝利の校歌が響き渡った。

この日の朝、金光大阪の校歌作曲された金光威和雄さん（元武蔵野音大助教授）が亡くなられた。ご息女の和恵さんによると、入所していた施設を出る直前に、ラジオから校歌が流れてきたそうだ。一方西村公延校長（当時）（金光大阪在職35年、水木教会輔教）は、スタンドで校歌を歌いながら「威和雄先生も聴いてくださっているだろう」思っていたという。時空を超えて選手の思い、お二人の思いが繋がっていた。

二回戦は関東の強豪木更津総合高校戦。両エースの息詰まる投手戦となった。金光大阪は6回裏2アウト

3塁のチャンスに、キャプテン岸本君のレフト前ヒットで先取点を奪った。8回には守りのミスから同点とされ、13回には1アウト2・3塁からセンター前ヒットで2点を奪われるも、その裏継投した相手投手のコントロールが乱れ、押し出し死球で逆転サヨナラという劇的な幕切れとなった。

準々決勝は、昨秋近畿大会の準々決勝で勝利した近江高校との対戦。エース古川君はさすがに疲れの色が見え、初回に1点を失い、4回には同点に追いつくもその裏追加点を許した。ここまで再三のピンチを最少失点でしのいでいたが、ミスから終盤に突き放され、1-6の敗戦となった。

西村校長は、「本校開校40年、甲子園初出場から20年という大きな節目に、甲子園初勝利とベスト8という結果を残すことができ、ありがとうございます。これは多くの方々、

オンラインで開催 首都圏布教御礼祈願祭

6月11日(土)13:30よりYouTubeでライブ配信

祭典後の教話「時代へのお役目」

講師 松本光明師

金光教浦和教会長／金光教教団会議長

<https://shutoken.konko.jp/live/>



そして御霊様の祈りがあつてのことだと思えます。皆様に厚く御礼申し上げます」と語った。

生徒や卒業生とその家族、そして金光教信奉者が一体となつての金光大阪の甲子園での快進撃だった。

(松本尚)